

技能実習生
47都道府県プロフィール（Ⅱ）

石川県

アセアンからの外国人自動車整備エンジニア

2021/6/14

株式会社ガレージフィックス（石川県金沢市）は、4名の技能実習生と特定技能のベトナム人ズオン君が働いている。

ズオン君は元々ガレージフィックスに在籍していた技能実習生で、日本におけるベトナム人で初の特定技能1号取得者だ。ガレージフィックスでベトナム人対応をしている新氏は、「初めての技能実習生の受入れには、コミュニケーションが取れるのかは不安でした。特定技能のズオンは一番年次が古いので、技能実習生たちを全員取りまとめる立場になっています」（新氏）

外国人を上手に活用している会社の共通点として、「職場の居心地が悪い」と感じさせないように心がけているということだ。孤独にさせない仕組みをつくる。仕事以外のコミュニケーションの場に誘ったり、常に社内の誰かがケアしてあげる。「メンター制度」を導入するのも一つの手段となる。



<https://response.jp/article/2021/06/14/346691.html>

「母国の味を」かなえる店 実習生支えたい…小松にベトナム食品店

2022/2/2

技能実習生らからの声を受け、JR小松駅にほど近い同市龍助町に、ベトナムの食材などを扱う「ベトナムショップ」がオープン。同国出身の真柄（まから）進さんが開いた。慣れない日本語や新型コロナ禍など、さまざまな不安を抱えながら日本で奮闘する外国人に、ほっとできる故郷の食材を届け、エールを送る。

真柄さんは父が日本人、母がベトナム人、首都ハノイで育ち。約五年前から実習生の通訳や相談、通院の付き添いに携わる。真柄さんは「みんなが日々のストレスに耐えている。週末に買い物に来て、母国の雰囲気を感じて、疲れを忘れてほしい」と願う。

店はベトナムだけでなく中国やタイなどアジア出身者の利用も多い。同じ境遇の外国人が集い、交流する場所を目指す。「近くに家族や友達がおらず、言葉の壁もあって不安があると思う。助け合って一緒に楽しく日本で過ごしたい」と話す。



広がれ「やさしい日本語」 難解な言葉 外国人に平易に 石川県国際交流協会 市民向け出前講座 計画

2022/4/10

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に自治体からの情報発信が増加。石川県国際交流協会は本年度から、市民対象の出前講座を県内各地で始める計画だ。

協会はこれまで、県内二十五カ所の日本語教室を対象にやさしい日本語の活用支援事業に取り組んできたが、日本語専任講師の今井武さんは「関係者の間では関心が高まっているが、一般市民にはまだ存在が遠い」と言う。二二年度から本格的に「やさしい日本語」の普及に乗り出す。文化庁の日本語教育推進補助事業に応募。



やさしい日本語を使ってベトナム人実習生（右から2人目）に日本語を教える北原さん（右）やサポーター＝石川県中能登

町の生涯学習センター「ラピア鹿島」で

今井さんは「やさしい日本語はあくまで手段。身に付けることで地域に外国人住民が暮らし、協力しないと町づくりができないと気付いてもらえれば」と多文化共生の意識が高まることを期待する。

<https://www.chunichi.co.jp/article/450984>

イカ釣り実習生 待ってた インドネシアの8人 小木支所で歓迎会 コロナ禍 1年半中断 船長「来てくれて助かる」

2022/6/1

インドネシアから来日した漁業技能実習生八人の歓迎会が三十一日、能登町小木の県漁協小木支所で開かれた。実習生は小木のイカ漁を支える貴重な人材だが、**コロナ禍で新規受け入れが一年半ほど中断していた**。今回も来日できるか心配された時期もあっただけに、中型イカ釣り船の船長、船主や漁協職員が実習生を温かく迎え入れた。

会では、県漁協の島本卓事業推進室長が「いよいよ海上での研修が始まる。**多くの技術をインドネシアに持ち帰ってください**」と歓迎し、同町の田代信夫副町長も「この研修が両国の漁業振興に生かされることを期待する」と伝えた。

実習生は「能登町に来られてとてもうれしい。人々も親切」と話し「いつかは**日本で船の免許を取り、日本で働けたら**」と夢を語った。



乗り込む漁船の船長とあいさつを交わす実習生ら＝能登町小木で